

目指す学校像	本校は、高い志を持ち、優れた資質と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する人材を育成する学校である。 そのために、様々な学習機会を提供し、各教職員がその専門性を活かし、組織的できめ細かな指導を行うことにより、次のような生徒を育成することを目指す。 1 自ら課題を発見し、主体的に「やり抜く」ことのできる生徒 2 物事を理性的に判断し、筋道を立てて議論できる生徒 3 高いモラルと豊かな感性を持ち、リーダーシップを発揮できる生徒 4 運動の楽しさや喜びを知り、自ら健康を管理できる生徒					
昨年度の成果と課題		重 点 項 目		重 点 目 標		達成状況
【学習指導・進路指導】 【成果】 ・難関大学や医学部への進学指導が実を結び、東京大学や筑波大学医学部などの合格者が出た。 【課題】 ・進学ノウハウの共有と成果検証 【生徒指導】 【成果】 ・生徒の自主性・自律性を重んじた指導が行われており、生徒指導上のトラブルは少ない。 【課題】 ・長欠等、目標を見失った生徒や特別な配慮が必要な生徒へのケア 【特別活動】 【成果】 ・学校行事や部活動に生徒が積極的に参加している。部活動と家庭学習のバランスを上手に取れる生徒が増えてきた。 【課題】 ・学習と部活動の両立に苦慮している生徒への対応 ・キャリア・パスポートの効果的な活用の検証 【国際教育】 【成果】 ・コロナ禍で海外への渡航ができず、代替案としてオンラインでカナダ研修を実施した。 【課題】 ・コロナ禍で実施する研修の充実と検証 【科学教育】 【成果】 ・SSHを中心として課題研究やディスカッションをするスキルは向上してきた。 【課題】 ・課題研究や発表・討論などに対する評価の仕方		1	高い志の育成	・キャリア教育の充実、キャリア・パスポートの活用（進路指導部、特別活動部、各年次） ・高大接続改革への対応（教務部、進路指導部、SSH） ・生徒の進路希望を達成する教育課程の編成（教務部、各教科）		B
		2	学力の向上	・タブレットの活用及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直し（教務部、進路指導部、各教科） ・総合的な探究の時間の充実・改善（教務部、SSH、1・2年次） ・先取学習や学習の深化など附属中学校の教育内容について教科会の定期的な開催（各教科） ・特別な支援を必要とする生徒や成績が不振な生徒に対する組織的な支援（各年次、各教科） ・医学部進学等のノウハウの蓄積（進路指導部、サイエンス科）		B
		3	豊かな人間性の育成	・教育相談や面談を通した生徒理解及び生徒・保護者支援（教育相談部、各年次） ・自主的・自律的態度を育てる特別活動や学校行事の充実（特活指導部、各年次）		B
		4	働き方改革	・個人で行う業務をチームで分担したり、学校外に委託する部分等を整理したりして、学校の抱える業務量を軽減する。（各校務分掌）		C
三つの方針		具体的目標			評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」（スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	本校は、高い志を持ち、優れた資質と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する人材を育成するため、次のような資質・能力の育成を目指します。 ○自ら課題を発見し、主体的に「やり抜く」ことのできる資質・能力 「やり抜く力」＝GRIT:Guts, Resilience, Initiative, Tenacity ○物事を理性的に判断し、筋道を立てて議論できる資質・能力 ○高いモラルと豊かな感性を持ち、リーダーシップを発揮できる資質・能力 ○運動の楽しさや喜びを知り、自ら健康を管理できる資質・能力			B	B ・一人一人の生徒に対応した進路指導 ・木場を見失った生徒への対応 ・主体的、対話的で深い学びの授業実践 ・ICTを活用した授業の推進 ・総合的な探究の時間の充実に向けた取組の推進 ・学習活動と特別活動の両立への支援 ・withコロナにおける各種行事の企画、運営
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	○進学重視型単位制の特徴を活かし、多様な選択科目を設置し、少人数授業を展開します。 ○普通科では、文系コース・理系コースを通して、生徒の進路希望に対応します。 ○サイエンス科では、医学コース・医学系進学コース、理工系進学コースを通して、生徒の進路希望に対応します。 ○教科指導の充実に努め、主体的・対話的な深い学びを推進し、課題発見能力や課題解決能力を育成します。 ○生徒が主体的に取り組む学習活動と特別活動の両立を推進し、生徒のやり抜く力や自ら健康を管理する力を育成します。 ○生徒が主体的に企画・運営する生徒会活動・学校行事等を充実させ、自主性や豊かな人間性を育成します。 ○国際交流、高大連携事業、大学・職場見学、ボランティア活動等の体験事業を推進し、生徒の高い志を育成します。 OSSで培った「課題研究」を推進し、論理的に議論できるリーダーを育成します。			B	
	「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	○本校の学修に必要な基礎学力を有している生徒 ○他者と協働して活動し、主体的に学ぶ姿勢を有している生徒 ○課題を見出し、課題を解決するための基礎的な思考力・判断力・表現力を有している生徒			B	

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価		次年度(学期)への主な課題
国語	1	〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕の二領域の資質・能力を総合的に育成し、基礎学力を養成する。(第1年次)	1)	授業を中心とした学習を進めるとともに、課外や個別指導を設定し、特別な支援を必要とする生徒や成績の不振な生徒に対する支援を含めた学力の向上を図る。	1、2	A	・ICTの効果的な活用。 ・ICTと紙媒体との効果的な併用 ・読解のための古事単語力、文法力の育成。 ・実践問題への対応力の育成。 ・新課程における授業展開の工夫
			2)	中高合同で定期的授業見学や教科会での研修を行って授業改善を図り、教科指導力の育成と向上を図る。	2	B	
			3)	中学生との交流授業を計画、実施して、中学校の深化学習と中高一貫教育の接続のあり方について研究する。	1、2	A	
			4)	年次に応じた多様な分野における読書指導と表現指導を行い、調和的な言語能力を育成する。	1、2	B	
	2	現代文・古文・漢文・表現の四領域それぞれの応用学力を養成する。読解力、鑑賞力、表現力の育成・向上を図る。(第2年次)	1)	授業を中心とした学習を進めるとともに、段階別の課外や個別指導を設定し、特別な支援を必要とする生徒や成績の不振な生徒に対する支援を含めた学力の向上を図る。	1、2	A	
			2)	中高合同で定期的授業見学や教科会での研修を行って授業改善を図り、教科指導力の育成と向上を図るとともに、中学校の学習の深化と中高一貫教育のあり方について研究する。	2	B	
			3)	年次に応じた多様な分野における読書指導と表現指導を行い、論理的な思考力・表現力を養成する。	1、2	A	
	3	現代文・古文・漢文・表現の四領域それぞれの受験に対応した学力のいっそうの向上を図る。言語文化に対する広くかつ深い関心を持たせ、高等教育に接続する思考力を育成する。(第3年次)	1)	授業を中心とした学習を進めるとともに、段階別の課外や個別指導を設定し、特別な支援を必要とする生徒や成績の不振な生徒に対する支援を含め、生徒の進路希望を達成するために学力の向上を図る。	1、2	A	
			2)	中高合同で定期的授業参観や教科会での研修を行って授業の改善を図り、教科指導力の育成と向上を図るとともに、中学校の学習の深化と中高一貫教育のあり方について研究する。	2	B	
地歴公民科	1	中高一貫教育校として、工夫された教育課程を編成し、生徒の進路希望の実現に向けて、学力の向上に努める。実施にあたっては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直しに留意しつつ、国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。	1)	1・2年次においては、望ましい学習習慣を確立させ基礎基本の定着を図る。3年次においては、授業を基本として学習を進めること他に、多様な希望に応えるため、個別指導や課外指導を積極的に行う。	1、2、3	A	・新教育課程の下、すでに1年次での履修が始まった「歴史総合」および「公共」について、それぞれの科目の趣旨・目標の達成に重点を置きつつ、大学入学共通テストにも配慮しながらよりよい授業方法を探るためさらに検討を行う。また、来年度から2年次での履修が始まる「地理総合」、「日本史探究」および「世界史探究」についても同様に、それぞれの科目の趣旨・目標をふまえつつ、同時に大学入試に対応できる力をつけるための指導方法の確立を目指す。
			2)	附属中学校の授業実施者と情報交換を行い、中高接続を意識した学習活動を展開する。	1、2、3	A	
			3)	中高の教員が一体となって、内進生への指導過程を再検証することで、最難関大学合格へ向けた指導のあり方を検討する。	1、2	B	
			4)	ICTの活用及び「主体的・対話的で深い学び」の授業を通して、科学技術と人間生活について考えさせ、国際社会について考察する能力を身につけさせる。	1、2	B	
	2	地理歴史科では、生徒の多様な希望に応えるよう、授業内容を工夫改善する。様々な視点を学ぶことにより多角的な思考力を涵養し、国際社会の中で主体的に生きる資質と能力を養う。	1)	1・2年次の授業では、地理や歴史に対する興味関心を喚起し、基礎基本の習得に努めさせる。世界の諸課題について、地理的に考察させるとともに歴史的な背景を理解させ、現在行われている対策について分析する方法と能力を身につけさせる。	2	A	
			2)	3年次の授業では、1・2年次の内容基礎としてより発展的な知識および技能の習得を図り、大学受験に対応できる能力を養う。自らの在り方・生き方を考察するなかで、世界の諸課題に対する論理的思考力を養う。	1、2	A	
	3	公民科では、生徒の多様な希望に応えるよう、授業内容を工夫改善する。政治・経済・倫理をより具体的に学ぶことにより、社会や自己の在り方について深く考察できる資質と能力を養う。	1)	1年次の「公共」においては、民主政治における個人と国家の在り方を学習させ、国際社会の一員としての自覚を形成させる。	2	A	
			2)	3年次の「政治経済」「倫理」では、教科書の内容の定着を図るとともに、課題学習や論述指導を行い、国際社会の中で自らの在り方・生き方を深く考察させる。また、授業内容は大学入学共通テスト以上の水準を維持する。	1、2	B	
数 学	1	3年間を見通した学力の養成	1)	1年次(高入) 基本的な知識・技能の習得の徹底を図り、基礎力・計算力の育成を図る。	1、2	A	・中高一貫の教科指導の方法や共通テストを意識した教材の研究 ・新課程における授業の展開や指導の向上 ・電子黒板やタブレット等ICTの活用の工夫 ・SSHとの連携
				1年次(内進) 基礎力・計算力の育成を図るとともに問題演習を通して知識を活用する能力を養っていく。	1、2	A	
			2)	2年次(普通科)教科書内容の理解の徹底を図り、さらに、問題演習を通して応用能力を養っていく。	1、2	A	
				2年次(サイエンス科)教科書内容の理解の徹底及び、発展的な内容の問題演習を行い実力養成を図る。	1、2	A	
			3)	3年次(普通科)少人数の授業を生かすことで、文系、理系を問わず、大学入学共通テストに対応するだけでなく、記述力の養成を図る。	1、2	A	
				3年次(サイエンス科)少人数の授業を生かし、大学入学共通テストの対応はもちろん、発展的、融合的な記述問題にも取り組み、記述力の養成を図る。	1、2	A	
	2	指導すべき基本事項の精選と、その理解の徹底、計算力の育成		「課外等(3年次)」により基礎力を培う。「課題(2年次)」を通して基礎力の定着を図る。1年次は「週課題」を課し、単元ごとに章末テストを行う。	1、2	A	
	3	成績上位者のさらなる学力向上		成績上位者に対する個別指導を行う。	1、2	A	
	4	知識量に頼らない応用力の育成		週末課題や章末テストの実施を通し、予習・復習の習慣化を徹底し、主体的に学ぶことの大切さを伝える。	1、2	A	
理 科	5	既習分野の実力育成		ネットワークを通した教材配信などを通して、既習・未習分野の学習内容の理解を深め、次年度の授業につながる学力を養成する。	1、2	A	・教科指導および教材の研究の充実をはかる。 ・記述対応能力を1年次の授業から積み重ねる。 ・多様な生徒への対応と学力の向上をはかる。 ・ICT活用の情報交換および研究をすすめる。 ・教科指導とSSHイベント(関連行事含む)とのバランスのとれた連携と調整を心掛ける。
	6	「科学する心」の育成		白垩研究等の授業を通して、科学に関する興味関心を喚起し、論理的思考力・創造力の養成を目指す。	1、2	B	
	7	中高6年間を通した指導の研究		発達段階や個に応じた指導内容や指導方法の研究を通して、中高一貫教育の充実を図る。	1、2	B	
	1	自然現象の中に見られる物理法則の学習を通して、科学的に思考する能力と態度を育てる。		知識の定着をはかるとともに、演示実験や生徒実験を通じて、自ら疑問を解決する生徒を育成する授業を展開するように努める。	2	B	
	2	身の回りにある物質に対する興味・関心を持たせ、化学的に探究する能力と態度を育てる。		演示実験や生徒実験を多く行うことで知識の定着をはかり、物質の構造や物質の変化等がわかりやすい授業をめざす。	2、3	B	
	3	基本的な生命の概念や生命現象の原理・法則を理解させるとともに、生物学的に物事を探求する態度を育てる。		観察・実験を通して生命や生命現象に興味を持たせるとともに、正確な知識の定着を図り、学力の向上を目指す。	2、3	A	
	4	身の回りの自然や物事を探究する態度を育てるとともに、地学的な知識・原理・法則を身につけさせる。		大学入試共通テストに必要な知識の定着を図る。また、観察・実験時のグループワークやレポートの提出を通して、地球や自然現象についての概念に興味を持ち、主体的に学ぶことで理解を深める授業を目指す。	1、2	A	
	5	共通テスト及び二次試験に十分対応できる学力を身につけさせる。		二次対策を見据えた問題演習に取り組み、受験対策に努める。	2	A	
	6	生徒の実態に合わせた学力の向上に努める。		個別指導や課外指導を積極的に行うことで、生徒ごとの個別の進路希望に細かく対応すると同時に、学業不振者の早期ケアに努める。	2	A	
理 科	7	科学的思考力を持ち、ディスカッションをできるリーダーの育成を図る。		「主体的・対話的で深い学び」の機会を設けた授業展開により、基本的な研究スキルを身につけ、ディスカッションができる人材の育成を図る。	2	A	・教科指導および教材の研究の充実をはかる。 ・記述対応能力を1年次の授業から積み重ねる。 ・多様な生徒への対応と学力の向上をはかる。 ・ICT活用の情報交換および研究をすすめる。 ・教科指導とSSHイベント(関連行事含む)とのバランスのとれた連携と調整を心掛ける。
	8	生徒の学力向上のため、さらなる科内連携の強化を図る。	1)	中学・高校の教員がそろう科会を利用して、附属中学や高校で学習する教科書や理科実験の内容を定期的に紹介し、実験方法や考察などについて意見を交換することで、中高6年間における学力向上を図る。	2	B	
			2)	特別な支援を必要とする生徒や成績不振な生徒に関する情報を科内で共有し、組織的に対応を図る。	1、2	B	

保健体育	1	個人及び社会生活における健康安全についての理解を深めさせるとともにグローバルな視野で健康をとらえ実践していく力を育む。	1)	これからの社会を担う一員としてグローバルな視点で健康について考える重要性を理解させる。	1、2	B	A	・新教育課程に伴い、学習内容の追加等による変更への対応・研究およびICT活用へのより一層の推進・情報交換・研究を進める。
			2)	課題解決型グループ学習での主体的・対話的な学びを通して、健康課題に適切に対応する能力を育てる。	2、3	A		
			3)	視聴覚教材の活用や実習を通して、健康安全に関する重要性を認識させ、知識を見識へと導く。	1、3	A		
	2	運動技能を高め、強健な心身の発達を施すとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じてスポーツに興味・関心を示し、主体的に運動を実践できる能力と態度を育む。	1)	体づくり運動、水泳、長距離走を重点種目に設定し、意欲的に取り組ませるとともに、体力の向上を図る。	1、3	A		
			2)	生涯体育に繋がる体育好きな生徒の育成を目指し、新体力テストでは県トップレベルを目指す。	1、3	A		
			3)	各種目において、自己やチームの課題に応じた反復練習や課題練習を通して、主体的に運動技能を高める。	1、3	A		
			4)	各種目において、作戦を立て、攻防の仕方を工夫し、練習やゲームができるようにする。	1、3	A		
			5)	運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができるようにする。	1、3	B		
芸 術	1	感性を高め、芸術の基礎的諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。	1)	生徒が芸術に主体的に関わり、知覚・感受したことを互いに共有・共感し合う中で芸術文化を理解し、意図をもって表現できるような指導に努める。	2	A	A	・カセット導入による授業時数削減への対応。 ・60分授業をいかした授業設計。 ・ICTの積極的活用と授業研究。 ・実技試験への指導の充実。
			2)	表現と鑑賞のバランスのとれた授業展開を工夫して、芸術的な素養を身に付けさせる。	2	A		
	2	芸術系進路希望者の実力養成。	1)	個別指導を充実させて実技試験に対応できる表現力を養う。	2	B		
英語	1	英語を読み、書き、聞き、話す活動を通して、実践的コミュニケーション力の基礎を習得させる。	1)	英語コミュニケーションIでは、少人数授業の利点を生かし、生徒の活動をベースとする授業を行い、内容理解力とともに自己表現力の育成に努める。	2、3	A	A	・教師と生徒が常に到達目標を共有しながら授業を展開する。 ・すべての生徒が取り組むべき課題を厳選し、余裕を持った実施計画を立てる。 ・より確かな知識の定着を目指し、小テスト等の出題範囲を狭め、実施回数を増やす。 ・生徒が学んだ知識や技能を繰り返し用いて身につけることができるよう、言語活動の在り方を工夫する。
			2)	論理・表現Iでは、複数教師による指導体制のもと適切に連携を図り、4技能の習得を意識しながら、基本的な文法や語彙の運用力を養成する。	2	B		
			3)	授業では、ペアワークやグループワークを活用し、4技能の統合や観点別評価に対応した言語活動を取り入れ、考查問題の工夫に努める。	1、2、3	A		
			4)	授業の補完的・発展的な学習として、課題(週末課題・宿題)や副教材を活用し、家庭学習の効果的な動機付けを図る。	2、3	A		
			5)	授業や課題を通して、従来よりも英語のインプット量を増やし、自然科学系の英文理解力の強化にも努める。	1、2	A		
	2	読解力・表現力の育成を中心に、実践的な英語コミュニケーション能力の基礎を育成する。	1)	コミュニケーション英語IIでは、教科書の題材を元に4技能をあげる活動を行い、英文理解力と自己表現力の養成を図る。	1	A	A	・ICTをさらに活用し、生徒の総合的な能力を伸ばす授業展開を工夫する。 ・使える英語習得のため、家庭学習へとつながる継続的・多角的な授業内容を展開する。 ・4技能のスコアアップのためのスキルアップが図れるようなメソッド研究し、演習の時間を確保する。 ・QRを目標とした語彙力・文法力の定着と、WPMを意識した共通テスト対策を行う。
			2)	英語表現IIでは、正確な英作文につながる基本文法や語彙を反復練習し、様々な場面で使える英語の習得に努める。	2	B		
			3)	ネイティブ教員とのQ&Aやエッセイライティングなどを活動を通し、授業の活性化と統合された英語の4技能の習得に努める。	2	A		
			4)	授業の補完的・発展的な学習・時事問題への関心喚起として副教材などを定期的に行い家庭学習の効果的な動機付けをし、英語習得の幅を広める。	2	A		
			5)	授業や課題では、ICTを活用し、英語のインプット量を増やし、自然科学系の英文理解力の強化にも努める。	2	A		
	3	大学入試にも対応できる、実践的な英語理解力と表現力を養成する。	1)	コミュニケーション英語IIIでは、教科書の内容を十分に理解したうえで、その内容を論理的に書いたり発表したりすることで、思考力、表現力の向上に努める。	1	B	A	・最後まで成績を伸ばしきることができない生徒が一定数いた。英語が得意な生徒は加速度的に伸びたが、下位層の生徒に対する取り組みに課題が残った。より下位層に対応した多面的な授業を実施したい。 ・他学年、中高間におけるより密な連携と指導を体系的に実施していきたい。
			2)	英語表現IIでは、語彙や文法の正確な運用力を育成し、様々な演習課題を通して実践的な英語表現力の養成に努める。	1	A		
			3)	各生徒のレベルに合った自習課題や課外授業を活用し、生徒が自ら学んでいる態度を育み、英語力向上を目指す。	1	A		
			4)	考查や小テストの内容や実施形態を工夫し、実践的な英語力養成への効果的な動機付けを図る。	1、2	B		
			5)	授業の内容や実施形態を工夫し、個別指導の充実も図りながら、効果的な入試対策指導を行う。	1、2	A		
家庭科	1	基礎的能力を伸ばし、身近な問題だけでなく世界の課題に目を向けた社会に参画する態度の育成	1)	講義・実験・実習を通して得た知識・技術を生かした将来の生活を構築する。社会の一員としての自覚を持ち、課題に対して生活に結びつけた解決策を考察する力を育てる。	1、2、3	A	A	・SDGsを意識した生活を定着させるよう单元ごとのまとめを意識する。
			2)	各分野ごとのまとめとして、グループ学習を取り入れ持続可能な開発目標(SDGs)に結びつけた思考力・実践力を養う。	2、3	A		
			3)	入試に対応できる考察力・記述力を育成するために文章でまとめる時間を取り入れ習慣づけを図る。	1	A		
			4)	支援を必要な生徒に対して早期からの個別指導を行い、学力・技術の向上に努める。	2、3	A		
	2	新教育課程の編成についての研究	1)	新教育課程に合わせた授業内容・展開・指導法の研究・実践・評価に努める。	1	B	A	新教育課程への移行や大学入学共通テストに対応した授業展開を行うこと。
情報	1	情報社会に参画する態度の育成	1)	講義や実習を通して、情報社会における基本的な知識と技術、情報モラルを習得させる。	2	A		
	2	情報活用実践力の育成	2)	実習を通して問題解決の手順を理解し、適切な情報手段を判断・活用し解決できる能力の養成に努める。グループ作業・プレゼンテーション活動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。	1、2	A		
	3	新教育課程の研究	3)	新教育課程における授業内容・授業展開・学習指導法の研究・実践に努める。	1、2	B		

教 務 部	1	学校行事の円滑な運営に努め、実施後に広く意見を集約し十分な検証を行う。新規行事に特に注意し、来年度以降の内容の充実にも努める。	1)	学校行事の内容を十分検討し、適正な時期に計画し実施する。目的を明確にし、効果的な役割分担を計画する。特に、新設された行事や時期が変更になった行事について検討を行い、内容の充実に努める。	1、2、3	A	A	・授業交換のシステム変更に伴うトラブルも4月から5月にかけては見られたが、その後は順調に運用できていた。次年度は、学校行事や、年次行事、特編時の授業編成を、よりスムーズに行い運用できる体制を整備する。 ・各教室に配備されている電子黒板の更新がうまくなされず、Youtubeやzoom使用時にトラブルが頻発に発生した。次年度は電子黒板の管理・運用方法を改善し、オンラインの授業・行事時のトラブルを回避したい。 ・60分授業、日課表の変更に伴い、例年実施してきた行事や授業にも予測できないトラブルも発生した。次年度はその反省を活かし、カセットの設定週・年間行事予定等の分析を通し、学校運営がより円滑に行えるよう工夫する。 ・コロナ禍で中止あるいは内容変更になっていたものが徐々に戻りつつあり、様々な部署と連携を強化し、再度行事運営を見直すことが必要になってくる。 ・急激な中学生の減少期に際し、生徒募集の方法や、PR方法を広報部と連携し、より強化していく。
			2)	各学校行事について、関係する校務分掌や年次との連携を密にし、円滑に運営出来るよう努める。また、附属中学校も含めた協働体制を構築するよう努める。	1、2、3	A		
	2	生徒の自己実現を図るため、授業時間の確保に努め、生徒一人一人の学力向上に努める。	1)	授業時数に偏りがないよう、時間割変更を的確に行い調整する。時間割変更業務の円滑な運営に努める。	1	A		
			2)	各教科との連携を密にし、より効果的な時間割編成に努める。		A		
			3)	授業交換のシステム変更に伴い、相対交換時のミスが発生しないように、注意喚起し、チェック体制を強化する。	1	A		
	3	各校務分掌、年次、教科が円滑に連携できるよう、学校運営の要として尽力する。また、これまでの取組に加え、今年度2年次に進級するサイエンス科の様々な取組についても積極的に支援する。	1)	校内定期考査および実力考査の適正な実施に努め、公正な評価を行えるよう考査環境を整備する。	1	A		
			2)	生徒の出入について、正確な状況の把握に努め、関係各部との連絡調整を円滑に行う。	2、3	A		
			3)	生徒の多様な進路希望に対応するため、授業展開や実施場所の工夫を行う。	1、2、3	A		
			4)	奨学金に関する情報を、正確確実に提供し、生徒のより良い学習環境の実現を図る。	1、2、3	A		
	4	進学重視型単位制高校として、より選択幅の広い教育環境の充実を目指す。また、併設型中高一貫教育校として附属中学校との連携に取り組む。広報活動を強化し、本校の存在価値を周知できるよう努める。	1)	各科等で教育課程を工夫しやすいよう、様々な情報の提供に努める。	1	A		
			2)	附属中学校と連携し、学校説明会を含めた広報活動をより一層強化し、増える中高一貫校の中での本校の存在価値を高め、優れた生徒を確保し、本校の発展に寄与する。	1、2	A		
			3)	附属中学校を含めた教育課程の研究を行い、併設型中高一貫校としてより効果的な教育内容の実施に努める。	1	B		
	5	進学重視型単位制高校として、ICT教育環境を整備し、魅力ある創造的な授業を目指し、相互授業参観や研究授業・ICT教育の実践を通じて授業方法及び評価の改善や研究に努める。	1)	教科や科目の目標と評価の観点を設定し、授業評価等のアンケートを通してその結果を可視化して検証し、PDCAによってその改善点を授業に還元できるように促し、教育効果が高まるような体制を確立する。	1、2、3	B		
			2)	進路指導部や各年次と連携し、3年間を通した学習計画を充実させる。	1、2、3	B		
			3)	総合的な探究の時間が円滑かつ効果的に実施できるよう各年次・担当部と連携・協力し進める。	2	A		
			4)	電子黒板やタブレットに関する問題点を改善し、利用環境を整備し、ICT教育が円滑に行われるように配慮する。	2、4	A		
			5)	教員間で公開授業の意義を再確認し、それぞれが授業内容の向上に努める体制を整備する。また、研究授業が盛んな中学籍の教員を活用し、「主体的・対話的」な深い学びを目指した授業研究・改善が行われるよう努める。	1、2、3	B		
	6	特色ある取組として、現在行っている高大連携や国際交流を積極的に推進する。	1)	イギリス海外研修、海外サイエンスセミナー、高大接続事業、高大連携事業等、本校における様々な事業について、実施方法や内容について検証するとともに、各部が連携しやすいよう努める。	1、2、3、4	A		
進路指導部	1	生徒一人ひとりの目標達成に向け、適切な進路指導に努める。	1)	進路に関する資料や情報の収集・整理と分析を行い、生徒に対し進路を考える上での情報として提供する。	2	B	A	教育課程の変わり目で混沌とする大学入試についてさらなる情報収集を行い、より正確な情報を教職員や生徒に提供することにより、それぞれが「新しい大学入試に適切に対応できるようサポートに努める。
			2)	生徒との進路相談を充実させるとともに、『進路資料』等を作成・活用しながら系統的な進路指導に努める。	2	A		
			3)	新しい大学入試制度に関する情報を積極的に収集し、本校の実態に即した適切な対策を講じる。	2	A		
	2	3年間を見通した計画的、系統的な進路指導に努める。	1)	インターネットの利用や「進路通信」の発行を通して情報の提供に努める。	2	A		
			2)	LHR・進路ガイダンス・HRセミナー・大学見学会等を通して自己の将来について考える機会をもたせるなど、キャリア教育の充実を目指す。	1、2	A		
			3)	国公立大学・難関私立大学への合格率アップをめざし、充実した課外授業や映像授業の活用などを通して進路実現に必要な学力を養成する。また、医学部医学科への進学者を増やすべく、指導のノウハウを蓄積する。	2	A		
			4)	様々な講演会や進路指導を通し、大学進学だけでなく、その先の将来をグローバルな視点で選択できる力を養う。	1、2	B		
	3	各年次及び各教科と密接な連携を図り、効率の良い進路指導に努める。	1)	外部模試は明確な目的意識をもって受験させるとともに、結果を分析・整理して全職員で情報を共有し、事後の指導に活かす。	2	A		
			2)	大学入試等、進路に関する情報を収集・整理・分析し、各年次や教科に速やかに提供する。	2	A		
			3)	進路関係の研究会には、高校教員のみでなく附属中教員にも参加を促し、積極的な情報交換と連携に努める。	2	B		
	4	教員一人一人が資質の向上に努める。	1)	教員対象の教科指導セミナーや研修会に積極的に参加を促し、教科指導や進路指導のスキル向上を図る。	2	B		
保健厚生部	1	健康で安全な生活を営むために必要な自己管理能力と、あらゆる場面に応じた判断力を育てる。新型コロナウイルス予防対策を含めた環境整備を促進し、安全で充実した教育環境をつくる。	1)	健康診断・健康観察等を実施し、生徒一人一人の健康状態を把握し適切な健康管理に努める。	3	A	A	・コロナ感染防止対策について続行。ただし、状況に合わせて判断していく。
			2)	防災機器の点検・管理、備蓄品管理を行う。避難訓練を通して生徒達の危機管理意識の高揚に努める。	3	A		
			3)	清掃活動やホームルーム・部活動等を通して、定期的な消毒等を行い学習環境の衛生管理及び美化に努める。	3	B		
	2	学校保健活動の推進と保健活動の向上に努める。	1)	学校保健委員会を通して1年間の学校生活の様子・体力測定の結果などを報告し、今後の取り組みに理解を求める。	2、3	A		
生徒指導部	1	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚に努める。	1)	様々な生活指導を通し、自主自立の意義を理解させ、更なる自律心を養う。	1、3	A	A	・GIGAスクール時代の生徒指導について、現状と課題の認識を正しく行い、単に生徒を守るという観点だけでなく、生徒の「自己指導力」を育成することが必要である。 ・「交通事故防止」や「不審者対策」についても、生徒自身が自らの問題であるとの認識を深めるような情報発信を検討する必要がある。 ・「多様性を認めること」と「教育上必要である様々な指導」のバランスを継続的に考える必要がある。
			2)	講話やLHRなどを利用し、挨拶や礼法的重要性を理解させ、自発的な励行を促す。	1、3	B		
	2	「社会の規範となる人材」としてのマナーを身につける。	1)	「さわやかマナーアップ運動」を推進するとともに、生徒会と連携し、マナーアップの呼びかけを行う。	1、3	A		
			2)	LHRや道徳などの授業を通し、モラルの向上やマナーアップに関する討論や活動を行う。	1、3	B		
	3	安全教育の推進と事故防止に努める。	1)	自転車指導・バイク指導等の交通安全指導を定期的に行う。	3	A		
			2)	薬物乱用防止等の安全教室を行い、生徒の危機対応能力を高める。	3	A		
			3)	教務部や教育相談部等と連携し、校内研修会を実施し、教職員のスキルの向上を図る。	1、3	B		

渉 外 部	1	保護者（家庭）、地域との連絡を密にし、相互理解を深め、円滑なPTA活動を行う。	1)	新入生父母と教師の会の運営の充実を図る。PTA総会の行事の企画を充実し、会員の出席を促す。	1、2、3	B	A	・4つの専門委員会の業務内容等を確認しながら、人数のバランスを考える。
			2)	ホームルームセミナー、大学見学等学力振興に関わる行事の企画、運営を充実させ、またマナーアップ運動等生徒指導に関わる企画、運営を充実させる。	1、2	A		
			3)	広報紙発行等広報に関わる企画、運営を充実させ、またマラソン大会の体育後援に関わる企画、運営を充実させる。	3	A		
			4)	各高等学校との連絡を密にし、地域のPTA活動を活発にする。PTA全国大会、関東大会等各種研修に積極的に参加、研修内容を持ち帰り、PTA活動に活かす。	1、3	A		
特活指導部	2	各専門委員会活動の調整を行い、生徒の健全育成の一助とする。	1)	総務委員会・全体委員会に十分な審議をし、結果を会員、生徒に知らせて共通理解を図る。決定事項等を各専門委員会の活動に反映させる。	2、3	B	B	・生徒会の効果的な活動方法の検討 ・生徒会活動の中高連携 ・「学校行事及び部活動の活性化」に対する具体的施策の構築及び実施
			1)	生徒会や各種委員会の活動を活発化させ、生徒全体で「望ましい学校像」を実現するため、意識の向上に努める。	1、3	B		
			2)	学校行事やHRの諸活動を通して、HRや学校生活における望ましい人間関係を構築させ、あわせて帰属する集団の発展のために必要な、健全な生活態度の育成を目指す。	1、3	A		
			3)	クラスマッチや野球応援など、学校行事への主体的かつ積極的な参加を促し、自分が所属する集団への帰属意識を高め、よりよい学校生活を送るための自主的・実践的な態度の育成を図る。	3	A		
			4)	社会性や人間性を高め、地域社会においてリーダーシップのとれる人材の育成をめざし、またボランティア活動を積極的に推進する。	1、3	B		
			5)	部活動への加入を促し、その活動を数的・質的に活性化、充実化し、学業と部活動の両立を目指す。	3	B		
			6)	キャリアパスポートを活用し、学期末や学校行事などの際に自らの活動状況を振り返らせることによって自己の能力や適性を理解させ、将来の職業や進路選択に生かす。	1	B		
学校図書部	1	図書館利用の活性化と読書活動の充実。	1)	生徒の読書意欲を高める図書の購入、展示の工夫をとおして図書館の利用拡大をはかる。また、活発で創造的な図書委員会活動ができるように支援する。	1、2、3	A	A	・図書選定の充実を図るため、生徒との対話を通して「生の声」を日常的に聞きながら選書に反映させる。また、読書活動の意義について、掲示やディスプレイなどの工夫をしながら理解を広める。 ・学年（修学旅行等）および教科との連携をはかり、生徒の学習の充実を図る。 ・放送委員の自主的活動を支援して学校運営の一翼を担える組織にする。
			2)	各教科・各年次（高校）・学年（中学）および部活動等との連携を図り、豊かな読書活動を目指す。	1、2	B		
			3)	館内の環境整備（館内配置の工夫、展示の充実やDVD等の新規図書資料の貸出、貸出システムのOA化）に努める。	1、2	A		
	2	校内放送の充実と放送技術の向上	1)	活発かつ学校行事の円滑な実施に資する放送委員会活動ができるように支援する。	1	A		
情 報 部	1	セキュリティ啓発とICT活用促進	1)	情報セキュリティ向上のための啓発活動を行うとともに、授業等でのICT活用が促進できるよう、教員研修を進める。	1、2	B	B	・今年度は従来の教育環境を維持および改善することを重視した。今後はよりGIGAスクール構想に合わせた更新が必要と考えられる。しかし既に授業等でのICT活用促進や校務ネットワークなどに必要な環境整備業務は多岐に渡っており、教務部や委託事業者の協力を仰ぎながら進めてきた。今後は、担当・管理する役割や分担を明確にする必要がある。
	2	校内サーバ、及び校務支援システムの安定運用	2)	校内ネットワークサーバと校務支援システムの安定運用に努める。	2	B		
	3	校内ネットワーク快適利用のための整備	3)	生徒所有PC、貸与PCのメンテナンス等、安全な使用方法をサポートし、教室無線LANなどの校内情報環境保守を確実に実施し、ICT環境整備を推進する。	2、3	B		
教育相談部	1	『豊かな人間性の育成』を目標に生徒の健全な人間形成と自己実現の促進に努める。	1)	専門家（スクールカウンセラー等）のアドバイスのもと、生徒及び保護者への援助活動を行う。	3	A	A	・スクールカウンセラーのアドバイスのもと援助活動は適切にできたが（今年度もコロナ禍であったため）全体研修ではなく、少人数での研修となった。
			2)	校内の研修会や中高連絡会を実施し、各方面に円滑な支援を行う。	3	B		
サイエンス部 (サイエンス科)	1	日本そして世界をリードする科学技術者や地域医療等に貢献する人材の育成を図る。	1)	最難関理工系、医・歯薬系大学への合格者数が増加するように、進路指導部及び年次・教科との密接な連携を図りながら、充実した企画や行事の実施を図り、生徒の学習意欲の高揚に努める。	1、2	A	A	・海外研修の在り方、それに代わる充実した研修の方法について研究する。 ・ホームページ等を活用したサイエンス科の活動の校外への広報、周知活動の充実を図る。
			2)	地域や大学の医師による講義、医療機関等（国内）での研修を柱とした「メディカルセミナー」の内容を充実させる。	1、2	A		
			3)	科学者や研究者による講義、研究機関等（国内）での研修を柱とした「サイエンスセミナー」の内容を充実させる。	1、2	A		
			4)	SSH事業と連携しながら「課題研究」や「ベトナム海外研修」の内容を充実させ、プレゼンテーション能力の向上や国際的な視野の育成を図る。	1、2	B		
	2	サイエンス科の広報活動を充実させる。	1)	体系的組織的な広報活動を行い、本校サイエンス科の教育活動について地域社会・近隣小中学校等への周知を図る。	1、3	B		
			2)	ホームページ等を通して啓発活動に努め、サイエンス科を志望する生徒を広く募る。	1、3	B		
サイエンス部 (SSH)	1	「科学的思考力を持ち、ディスカッションができるリーダーを育成する」ための課題研究の充実を図る	1)	「白星研究Ⅰ」により、科学的思考力や科学的ディスカッションができる人材を育成するための研究をする。	1、2	A	A	・1年次「総合的な探究の時間」については、継続的に生徒が「目的」「方法」を区別し、正しく活用できるよう、支援していく。
			2)	1年次「総合的な探究の時間」において、生徒が普段から「目的」「方法（計画）」を意識して生活ようになる研究を行う。	1、2	B		
			3)	「白星研究Ⅱ・Ⅲ」を通して、科学に対する興味・関心を高め、科学に主体的・協働的な取り組みができる生徒を育成するとともに、コミュニケーション能力やディスカッション能力を向上を図る研究をする。	2	A		
			4)	「白星科学A・B」を通して、科学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深めるため、ディスカッションの機会を設けた授業を展開する。実験等により、研究の基本的なスキルの向上を図る研究をする。	1、2	A		
			5)	中高一貫校としてのサイエンスリテラシー育成教育の研究に努める。	1、2	A		
	2	国際的に活躍する科学技術人材の育成を図る	1)	「白星科学セミナー」「科学講演会」「科学研修会」「数学力育成講座」など、大学・研究機関・産業界と連携した取組により、科学に対する意欲・好奇心を高める。	1、2	A		
			2)	「白星ネイチャースクール」「科学研究発表会」「科学系コンテスト」「科学の祭典」等に、生徒を積極的に取り組ませることにより、科学者の資質の育成を図る。	1、2	A		
			3)	「科学英語」「海外研修」「白星英語セミナー」を通して、コミュニケーション能力の伸長を図る。	1、3	B		
	3	SSHの普及を図る	1)	「SSH研究発表会」「SSH成果発表会」、及び「課題研究」に関する科目の公開授業を実施することにより、校内外に本校の活動を広めるとともに、SSH活動の活性化を図る。また、SSH通信やHPなどを活用し、広報活動に取り組む。	1、2	A		
	4	課題研究の質の向上を図る	1)	「白星研究Ⅰ」や「数学力育成講座」において「統計学」を取り入れることにより、データの信頼性を高める活動をする。	2	A		
広報部	1	生徒確保に向けた宣伝活動を行う。	1)	ホームページ（中・高）の管理・運営を行う。	1	A	A	・ホームページに関しては、そろそろ内容の見直しが必要となる時期になっている。 ・中学校への対応は現状維持が良い。
			2)	本校学校説明会の運営及び中学校・進学塾等からの説明会の要請へ対応する。（中・高・教務との共催）	1	A		

第1年次	1	社会の一員となる自覚と規範意識を持たせ、自主・自律の意識を持たせる。	1)	自主・自律の校風の下、規範意識を持ち、生徒自らが良好な学校環境を作れるよう指導・助言を行う。	1、3	B	B	・学習習慣及び基礎学力の向上 ・ICT、タブレット等の情報機器の扱いと指導 ・新課程「情報Ⅰ」の扱い
			2)	HR活動や「道徳」の授業において心の教育を充実させ、マナーや倫理観を向上させる。	1、3	B		
	2	授業を大切に学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けて基礎学力の定着を図る。	1)	授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、家庭学習の習慣を身につけさせることにより学力の向上を図る。	2	B		
			2)	基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題・課外・校外模試等への積極的な取り組みを促す。さらに学習調査などをもとに生徒個々に対しアドバイスを行っていく。	2	B		
			3)	総合的な探究の時間を充実させるとともに、特別な支援を必要とする生徒や成績不振の生徒に組織的な支援を行う。	1、2	B		
			4)	授業の大切さを強く意識させ、意欲を高められる授業を展開するため、研究・改善を行い教科指導の充実を図る。	2	B		
	3	高い志と目標を持つとともに、世界的な視野を持ち、社会に貢献する意欲を持たせる。	1)	進路指導部との連携を図り、面談実施、情報周知・共有化により、進路に対する意識を強める。	2	B		
			2)	HRセミナーや大学見学会をとおして、職業観の育成及び上級学校・学問の理解を図り、高い進路目標を持たせる。	1、3	B		
			3)	SSH事業や国際交流事業などをとおして、視野を広げ国際社会で活躍しようとする意欲を育成する。	2	B		
	4	部活動やホームルーム活動、学校行事への積極的な参加により、協調性・社会性・愛校心を持たせる。	1)	部活動や生徒会活動、その他の学校行事等への積極的な参加を促し、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、心身共にバランスのとれた人間形成を図る。	1、3	B		
			2)	課外の実施時間や時期の設定を工夫しながら、部活動と課外活動が両立できる環境を整える。	1、3	B		
第2年次	1	社会を構成する一員としての自覚と規範意識を身に付けさせ、自己指導能力を育成する。	1)	自主・自律の校風の下、規範意識を高め、生徒自らが良好な学校環境を作れるよう指導・助言を行う。	3	A	A	・進路実現に向けて、年次全体で共通理解をもって、面談等の個別指導を行う。 ・特に国数英においては、基礎学力の定着を徹底させ、4月からの実践力育成につなげる。 ・生徒の進路目標に近づけるために学年団で連携し、課外や模擬試験などを有効活用していく。
			2)	総合的な探究の時間、HR活動やその中で行われる道徳プラスを通して、マナーや倫理観の向上など、心の教育を充実させ、自己指導能力を高めさせる。	3	A		
	2	進路指導を充実させ、進路に対する意識を強め、より高い目標を持つ姿勢を養うとともに、世界的な視野を持ち、国際社会に貢献できる人材を育成する。	1)	進路指導部との連携強化、個別面談の実施、情報の周知・共有化など、日頃の進路指導を充実させ、進路に対する意識を高めさせる。	1	A		
			2)	総合的な探究の時間、HRセミナーや目標とする大学のオープンキャンパスの参加を通して、学問への関心を高めるとともに上級学校への理解を図る。さらに、高い進路目標を持たせると共に、その実現に向けた幅広い知識と教養を身に付けさせる。	1、2	A		
			3)	SSH事業や国際交流事業等を通して世界的な視野を広げ、国際社会で活躍できる表現力・英語力・技能を持つ人材の育成に努める。	1、2、3	A		
			4)	大学入試改革に伴う英語外部検定や多面的評価等への対策など、進路指導部、英語科と連携し、組織的に取り組む。	1、2	A		
	3	授業を大切に学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けた確かな学力を育成する。	1)	授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、家庭学習の習慣を身につけさせ、学習方法の仕方を考えさせることにより学力の向上を図る。	2	B		
			2)	基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題・課外・校外模試等への積極的な取り組みを促す。さらに学習調査などをもとに面談の機会を数多く設け、生徒個々に対しアドバイスを行っていく。特に支援が必要な生徒に対しては、各教科と連携を図ってこれにあたる。	2	A		
			3)	授業への意欲を高めさせ、高い学力を育む授業を展開するため、研究・改善を行い、教科指導の充実を図る。	2	B		
	4	中堅年次として、部活動やホームルーム活動などの特別活動や学校行事への積極的な参加により、愛校心・協調性・社会性を育成する。	1)	部活動や生徒会活動、その他の学校行事等において中心的役割を担う意欲を高めさせ、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、心身共にバランスのとれた人間形成を図る。	1、3	A		
			2)	課外や模試の実施方法を検討しながら、部活動や課外活動に積極的に取り組める環境を整える。	2、3	A		
第3年次	1	将来、社会において自らが担う役割を自覚させ、ノブリス・オブリージュ精神の涵養を目指し、深い思慮と優れた判断力・行動力を身につけさせる。	1)	最高年次としての責任を自覚させ、自らの生活を律し、進んで学校環境の改善に努める姿勢を養う。	1、2、3	A	A	・生徒それぞれの進路目標に対応できる指導を確立する。 ・成績などの個人情報取り扱いには細心の注意を払う。 ・面談を適宜行い、生徒理解に努める。 ・一時間一時間の授業の積み重ねを大事にする。 ・推薦合格者のモチベーションを下げさせない。
			2)	日々の生活の中で、自己と社会との関わりを意識させ、他者を尊重し、ともに向上する意欲と態度を養う。	1、2、3	A		
			3)	LHR・個別面談等を通じ、生徒の自己理解・他者理解の深化を促し、深い思慮と優れた判断力・行動力を身につけさせる。	1、2、3	A		
	2	高い志を下げさせることなく、第一志望校合格を目指させ、進路指導部との連携のもと、組織的・計画的な進路指導を行う。	1)	授業への集中力を高めさせると同時に、課外・サテライン・校外模試への積極的な参加と、その有効活用を図る。	1、2	B		
			2)	朝や放課後の自習の励行、自習室の活用促進により、最適な自学・自習の環境を作る。	1、2	B		
			3)	生徒の希望する大学や学習到達のレベルに合わせた課外授業や習熟度別授業を行い、レベルアップをはかる。	1、2	A		
			4)	進路情報や指導法の共有化を図り、生徒の多様な学力・進路希望に対応できる指導体制を構築する。	1、2	B		
	3	最高年次として、部活動をはじめ学校行事ならびに特別活動やホームルーム活動への主体的な取り組みを促し、集団に寄与する精神を育てる。	1)	文武両道（学習活動と特別活動の両立）をめざし、心身の調和がとれた優れた人間性となぐさ生きる力を養う。	1、3	B		
			2)	各種の学校行事に主体的かつ積極的に参加し、これを主導するリーダー性を養う。	1、3	A		
	4	自然科学や人文科学など、学問に対する興味関心の幅を広げ、国際社会において貢献できる人材の育成に努める。	1)	基礎・基本を踏まえ、それを応用できる力の育成を目指し、一人一人の探求心や科学的思考力を高める。	1、2、3	A		
			2)	授業やLHRを通じて、広い視野や高いコミュニケーション能力など、国際社会で活躍できる力の育成に努める。	1、2、3	B		

※評価基準 A:大変よくできた B:よくできた C:ふつう D:やや不十分 E:不十分